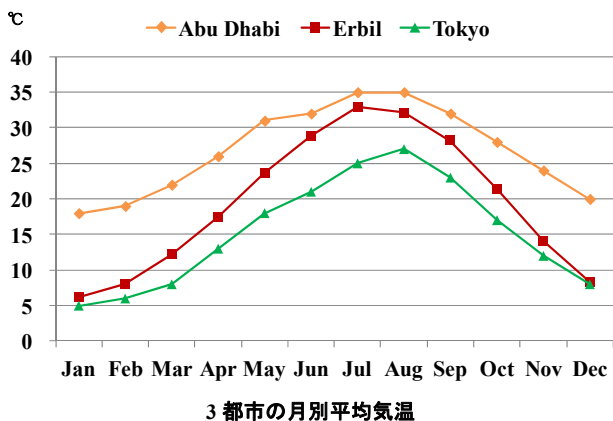


### イラク国クルド地域のハウス事情

1970 年代からハウスを使った栽培を行っていた UAE などの湾岸産油国とは違い、クルド地域でハウス栽培が始まったのは 2000 年代に入ってからと、その歴史は浅い。クルド地域で見られるハウスは、レバノンから輸入されたものがほとんどで、黄色いポリエチレンで被覆された半円型である。また、クルドのハウスは簡素なものが多く、一般的なハウスにはパッド・アンド・ファンなどの冷房装置は設置されていない。

クルド地域の中心都市であるエルビルの平均気温を見てみると、夏場は UAE のアブダビと同等に 30℃を超え、冬場は東京並みに 5℃くらいまで下がる。これは、クルド地域のハウスでは、夏期には UAE 並みの冷房が、冬期には日本並みの暖房設備が必要であることを意味しており、冷房の事だけを考えていた UAE とは違う考え方が求められるのではないかと思います。



クルド地域では、夏期にはハウスの正面と背面のポリエチレンシートをネットに変え、通気性を良くすることで暑さに対応している。しかし、それでも日中のハウス内気温は 50℃を超えることもあることから、作物にも作業する人間にも過酷な環境であり、ハウスに入る事自体が苦痛となる。あまりに暑いため、ポリエチレンシートが重なっている部分を強引にずらし、隙間を作ることで換気を試みているが、あまり効果的とは言えない。しかも、



夏場はネットを張る



無理やり換気

この隙間にはネットも無いので害虫や小動物も来放題である。ハウスに側窓を付けたり、被覆資材を変えることで、もう少し改善できるのではないかと思います。

気温が下がっていく夏から秋にかけて、クルドのハウスではズッキーニやキュウリ、ナスなどが栽培され、無加温で収穫できる期間だけ栽培を行う。通常 10 月下旬には栽培が終了する。そして、年間を通じてもっとも寒い 11 月から 3 月までは栽培を行わず、4 月ごろからトマトやキュウリなどの果菜を栽培することが一般的である。しかし、これでは露地栽培と大差なく、せっかくのハウスの優位性を生かし切れていない。ごく一部の篤農家では、家庭用のストーブなどを使ってハウスの加温を試みているが、農業用のストーブは国内の資材店では購入できず、農家自身が直接海外の業者から購入しなければならないため、まだまだ一般的ではない。



クルドの温室を暖めるストーブたち

このように見て来ると、現状のクルドでハウスを使うメリットは、秋作の収穫期間を数週間伸ばす程度でしかなく、ハウスの設置費用や夏の高温なども考慮すると、そこまで魅力的な選択肢であるとは思えない。しかし、イラクの農産物はトルコやイラン、シリア、ヨルダンなどの周辺国からの輸入に頼っており、自給率の向上という観点からもイラクの農業地帯であるクルド地域の園芸技術向上は重要な課題である。地政学上のリスクはあるものの、順調に経済が発展し、人口も増えているクルド地域では、今後、農業分野への投資も増えていくものと思われる。ハウスを有効利用するためには、周年で栽培を行い、稼働率を上げる事が一番である。海外からの資材に頼るばかりではなく、クルド地域に最適化した施設栽培法を確立していくことが大切になってくるのではないだろうか。